

# poco a poco

パラグアイ便り 2023/10/01 Número8

2022年度 青年海外協力隊

氏名：吉田 花純

職種：小学校教育

「いつの間に冬が来ていたのだろうか?」と、厳しい冬の寒さを特に感じることなく、春を迎えました。春と言えど40℃を超える猛暑が続いています。記憶に残っている“冬”は、寒さが一週間ほど続いた6月のこと。日本の冬と同様にセーターやダウンジャケット、ニット帽を着込んでも、暖房器具が十分に備わっていないことや隙間風が原因で、部屋の中でもぶるぶると震えながら過ごしました。屋根の修理が数日間かかっていたために、一番寒かった日には屋根のない部屋で寒さと格闘しながら過ごしたことも、今となってはもう懐かしい思い出です。

9月に3回ほど訪れた激しい嵐で、2階に住んでいるにも関わらず床が浸水しました。その汚水（雨、虫、砂、泥、葉、糞、埃が混ざった臭いがする茶色の水）をタオルに含ませては絞る作業を一晩中繰り返したことも、きっと数ヶ月後には良き思い出となっていることでしょう。

有難いことに、こちらでの人間関係が広がるにつれて、活動の幅も徐々に広がっています。規模の大きな研修会の企画や、イベントで重要な役割を任せてもらえることに、やりがいを感じています。何もなしのところから始まり、地道に信頼を積み重ねてきた生活・活動です。私のような得体の知れない外国人には、チャンスは待っていてもやって来ません。現地の人と同じ水準で生活を共にし、時間を共有することで得られる信頼が、やがて口伝えに広がり、別のチャンスを引き寄せてくれます。子どものときの“宿題”と同じで、人に言われてする仕事ほどつまらないものはありません。ところが、自分で開拓して勝ち取ってくる活動は非常に面白く、つい夢中になり、身体を休めることを忘れがちになることがあります。自分の身体と相談し、意識的に休憩させてあげる時間を作ることが、最近の私の課題です。

## 【日本人が得意なこと、パラグアイ人が得意なこと】

最近、いくつかのイベントに企画の段階から携わりました。日本人だけで企画したイベント・私とパラグアイ人とだけで企画したイベントでは、それぞれ計画の立て方や役割分担の仕方、配慮すべき事項や自分の立ち居振る舞いが大きく異なり、文化の違いを改めて肌で感じることにになりました。そんな違いから私が感じた“日本人が得意なこと”と“パラグアイ人が得意なこと”を紹介しようと思います。

### ★日本人が得意なこと

・綿密に計画を立て、その通りに遂行すること。

▶本番を想定して何度も計画を練り直しました。早い段階から準備や計画を始め、会議を繰り返す中で、より良いものを求めて活動しました。実施後には、次回に向けての振り返りも行いました。

・察して行動すること。

▶視野を広く持ち、不足している役を見つけると、指示を待つことなく、さり気なくサポートに入る姿に懐かしい印象を受けました。久しぶりにそういった“察し合い”が通じる環境を体験し、慣れている私にとっては楽だなあと心地よさを感じました。

『日本パラグアイ交流展』  
というイベントで、  
浴衣の着付け体験コーナーを  
担当しました。  
色鮮やかな花柄の浴衣が  
特に女性に大人気でした。



### ★パラグアイ人が得意なこと

・臨機応変に対応し、その場で100%を作り上げること。

▶イベントの主催者は私であり、緻密に計画を立てました。私ではなく、現地の方々に“自分たちで作上げた”というやりがいを感じていただきたく、適材適所を考え仕事を割り振りお願いをしました。言語も文化も違う相手に仕事を依頼するときには、共通するイメージを持つことができているために一から丁寧に説明をする必要があります。そういった段階を踏み、本番では思い切り盛り上げてくれました。パラグアイ人はお喋りすることが大好きで、人前で面白おかしく話をするのが得意な人が多い印象です。大きな声で人を引きつけ、表情豊かにジェスチャーを組み合わせる話す姿は、まるでエンターテイナーのようです。

・頼み事を快く承諾してくれること。

▶パラグアイに来たばかりのとき、私はパラグアイ人のことを誤解していました。自分より役職が上の人が目の前で掃除を始めても、何食わぬ顔でスマートフォンを触っていたり、楽しそうにお喋りし続けながらお菓子を食べたりするなど、義務的な仕事しかやらないことがパラグアイスタイルだと思っていました。それは私に対しても変わらず、同じ空間で私一人が慌ただしく働いていても「何か手伝おうか？」と聞かれることは滅多にありません。しかし「これをやってほしい！」と具体的にお願いと、「もちろんだよ！」と嫌な顔一つせずに、一生懸命に手伝ってくれます。そして感謝の気持ちを伝えると、とても嬉しそうな表情を見せてくれます。パラグアイ人同士でも、「手伝って!」「いいよ!」と言葉を用いてコミュニケーションをとっている姿をよく見ます。よく“気持ちは言葉にしないと伝わらない”と言いますが、まさにこういうことなのだろうなあと感じます。とても根気が要ることですが、私自身も自分の気持ちをはっきりと言葉で伝える癖がついてきたのではないかと思います。



同僚と企画した研修会の様子

### 【ひとこと】

パラグアイの公用語はスペイン語とグアラニー語です。私は派遣前からスペイン語を学習しており、活動の場ではスペイン語でコミュニケーションをとっています。しかし、まだまだ自分が納得のいくように話すことはできないため、オンラインでスペイン語のレッスンを受けていたり、自宅で学習していたりするなど、語学学習を続けています。相手の言語を学ぶということは、敬意を示すことに繋がると考えているからです。基本的にスペイン語を話すことができれば、パラグアイ人とコミュニケーションをとることはできます。しかし、地域差はありますが、パラグアイ人同士の会話になった途端に、グアラニー語や、グアラニー語とスペイン語を交ぜて話すジョパラが飛び交います。田舎に行けば行くほど、グアラニー語で話す人が多いようです。私が住んでいる地域でも、グアラニー語は日常的に用いられています。パラグアイ人は、グアラニー語を話しているときほどリラックスしており、気心が知れた友達や家族と本音で話しているという印象を受けます。私がたった一言グアラニー語を話すだけで、その場が盛り上がり、非常に喜ばれます。それくらいグアラニー語は、パラグアイ人のアイデンティティに関わる大切な言語であると感じています。

そこで、チャンスをいただき、約一週間のスペイン語によるグアラニー語研修に参加してきました。一週間で完全に習得することは不可能ですが、それでも聞き取ることの出来るグアラニー語が増えた気がします。よく耳にする言葉の意味が分かり、すっきりすることもありました。

コミュニケーションの基本は言葉です。私はすぐに結果の表れない言語の学習は得意ではありません。それでも、パラグアイ人と分かり合うため、時に気持ちをぶつけ合うためにも、学習し続けていかなくてはなりません。たくさん感じていることや考えていることがあるのに、自分の語学力の低さが原因で伝えたいことを諦めざるを得ないときは、非常に悔しいものです。また、表出しなければ何もアイデアを持っていないとみなされてしまうことも、辛く悲しいものです。こうした悔しさをバネに、これからも継続して語学学習に取り組み続けていきます!